

福田百合子『心のふるさと散歩』論

——朗読会とお話し会から見えてきたもの——

林 伸 一

1. はじめに

ボランティアグループ「山口の朗読屋さん」は、活動を開始して以来、約5年が経過した。

2016年にやまぐちカルチャーセンターの講座「ところが温まる朗読の世界」が開講し、翌年の2017年から講座名を「街の朗読屋さん」と改称し、2018年からは講座の枠を超えて、出前公演するボランティア団体として、「山口の朗読屋さん」を結成した。(詳細は林 2019参照)

2019年1月13日と2月24日に山口県立図書館第1研修室で「福田百合子在中也を語る朗読+お話し会」を開催し、二日間合計87名が参加した。(詳細は林 2020参照)

2019年11月30日には、小郡地域交流センター講座室で「福田百合子が金子みすゞを語る朗読+ハープ演奏+お話し会」を開催し、合計68名が参加した。(詳細は林 2021参照)

2020年は、コロナ禍のために「福田百合子先生を囲む朗読会」は、実施できなかった。

2021年は、以下の表1のように9回の「福田百合子先生を囲む朗読+お話し会」を開催することができた。2年目のコロナ禍にあって、読み聞かせや朗読のグループが活動を自粛するか休止する中、「山口の朗読屋さん」は定期的に活動し、延べ265名が参加できた。

表1. 2021年福田百合子先生を囲む朗読+お話し会

開催日	表題	内容	会場	参加
1月30日(土)	福田百合子が香月泰男を語る	『シベリアの豆の木』朗読+お話し会	山口市菜香亭	28名 (26)
2月13日(土)	福田百合子が大内文化を語る1	「山口の文学者一塔の見える街」朗読と学びの集い1	山口市菜香亭	31名 (27)
2月27日(土)	福田百合子が大内文化を語る2	「山口の文学者一塔の見える街」朗読と学びの集い2	山口市菜香亭	30名 (28)
3月13日(土)	山口の朗読屋さん春の朗読会Part 1	『心のふるさと散歩』春の章1 ケイチツ・折紙・鳥	阿知須図書館	17名
4月12日(月)	山口の朗読屋さん春の朗読会Part 2	『心のふるさと散歩』春の章2 櫻花・貝・林檎の花・おぬい豆腐	吉敷地域交流センター	30名 (25)
6月19日(土)	山口の朗読屋さん夏の朗読会Part 1	『心のふるさと散歩』夏の章1 写真・病気の神様・鬼瓦・時計	吉敷地域交流センター	24名 (20)
7月24日(土)	山口の朗読屋さん夏の朗読会Part 2	『心のふるさと散歩』夏の章2 遠足・牛の舌・お盆・百日紅	吉敷地域交流センター	30名 (28)
9月27日(月)	山口の朗読屋さん秋の朗読会Part 1	『心のふるさと散歩』秋の章1 お風呂・ネルの匂い・樺・銀杏	山口市菜香亭	33名 (26)
10月18日(土)	山口の朗読屋さん秋の朗読会Part 2	『心のふるさと散歩』秋の章2 中也忌・コスモス・白鳥の湖他	小郡地域交流センター	42名 (38)

参加人数には、スタッフの数も含まれる。() 内は、アンケート回答者数を表す。

2. 「福田百合子が香月泰男を語る『シベリアの豆の木』朗読+お話し会」(1月30日)

2021年1月30日(土)の午後2時～4時、標記の朗読会が山口市菜香亭(山口市天花1丁目2番7号)で実施された。

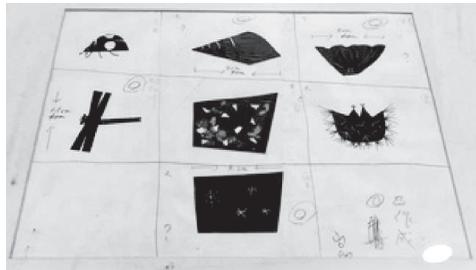


古川薫の『シベリアの豆の木—香月泰男ものがたり—』(影絵:石井昭、新日本教育図書、1996)をテキストに朗読し、福田百合子先生に画家・香月泰男氏についてお話しいただいた。参加者は28名で、好評であった。

また、宇部の劇団ゴッポと山口の朗読屋さんが『ジャックと豆の木』の紙芝居も上演しながら、同時に童心社からの許可を得てパワーポイントで映写した。劇団ゴッポは、宇部市東岐波にある総合型スポーツクラブ内の朗読教室のメンバーで構成されている。

主催は「アーサー・ピナード研究会」(代表:金崎清子)であったが、「山口の朗読屋さん」(代表:林伸一)が共同主催団体として、企画・運営に当たった。

絵本は、とかく子供向けの読み聞かせの材料としての扱いを受けるが、子どもから大人まで楽しんで味わうことができる。シニア世代の人であっても、「読み聞かせ」というより「読み語り」(朗読+お話し会)の題材になる。それが上記朗読会に多くのアクティブ・シニアの方々が参加してくださったことでも確かめられた。絵本だけでなく、紙芝居も同様のことが言える。



福田百合子著『心のふるさと散歩』は香月泰男氏が装幀や題字、挿絵を手掛けたものであり、当時の経緯が福田先生から語られた。挿絵の実物を福田先生が保管されており、2月の朗読会会場で展示された。同書は、1969(昭和44)年に文芸山口双書vol.1(文芸山口60号発行記念)として山口県文芸懇話会が発行者となり、白藤書店(山口市中市町)から発行された。しかし、白藤書店は、香月泰男氏に無断で、次の文芸山口双書にも、同じ装幀や挿絵を用いようとしたため、香月氏が「福田百合子さんのための装幀や挿絵をほかの人の本に使ってもらっては困る」とし、同書店からの発行を見合わせたという経緯があったとのこと。

白藤書店からの初出版は自費出版の扱いであったが、翌年の1970(昭和45)年2月に赤間関書房(下関市幡生宮の下町)から『心のふるさと散歩』(全204頁)が復刻・再版されることになった。さらに同年4月に赤間関書房から『続・心のふるさと散歩』(全278頁)が刊行された。同書も香月泰男氏が装幀・カットを手がけている。

中国新聞の2014年1月21日の記事には、福田百合子先生は次のように書かれている。

「1969年に初出版した『心のふるさと散歩』を通じて、抑留体験を描いた『シベリア・シリー

ズ』などで知られる洋画家の香月泰男の知遇を得た。民放ラジオ番組『心のふるさと散歩』で香月さんを取り上げた。長兄の秀太郎がシベリアで死亡したこともあり、香月さんの取材をと思い、中国新聞社の記者と知人と3人で三隅町（現長門市）へ会いに行った。

『続・心のふるさと散歩』の中の「アトリエ」（pp. 6-11）には、香月泰男氏との出会いのいきさつや香月氏のアトリエでのやりとりが詳しく記述されている。（注1）

ここから「心のふるさと散歩」は、ラジオ番組として放送され、後にその放送原稿が本となったことがわかる。その点、聞いてわかるラジオ番組の特性から、朗読のための素材として適していると考えた。テレビ番組は、映像に頼ることが多く、朗読には不向きな場合もある。

2-1. 「福田百合子が香月泰男を語る」（1月30日）アンケート集計

参加者28名中26名の回答（スタッフ8名を含む）を得たので以下に結果を開示する。

内訳は＜男性③・女性②②・性別無記入①＞ 年齢は＜50代③・60代⑧・70代⑪・80代③・無記入①＞であった。最多項目を太字で示し、○内に人数を示す（次回以降も同じ）。

表2. 「福田百合子が香月泰男を語る」（1月30日）アンケート集計結果

- | |
|---|
| 1. この朗読+お話をどのようにお知りになりましたか？
はがき⑩ 新聞① 知人・友人⑨ その他⑤ 無記入④ |
| 2. 特に印象に残ったのは、次のどれですか？
紙芝居「ジャックと豆の木」⑤ 絵本「シベリアの豆の木」朗読⑭
福田百合子のお話②② 香月泰男の絵画② その他：① |
| 3. 今回の朗読+お話会の「朗読」について、どう思いますか？
とても良かった⑮ 良かった⑪ どちらとも言えない① 改善の余地あり① |
| 4. 今回の朗読+お話会の「福田先生のお話」について、どう思いますか？
とても良かった②③ 良かった③ どちらとも言えない① 改善の余地あり① |
| 5. 今回の朗読+お話会の「紙芝居の上演」について、どう思いますか？
とても良かった⑪ 良かった⑫ どちらとも言えない① 改善の余地あり① |
| 6. 次のどの作家の朗読会・読書会などに参加なりたいですか？
中原中也⑨ 金子みすゞ⑫ まどみちお⑫ アーサー・ビナード⑧ 福田百合子⑬ |

* 紙幅の都合で、自由記述、会場の印象、コロナ対策の項目は省略する。

上記の結果から、参加者は朗読や紙芝居よりも福田百合子先生のお話の方が強く印象に残ったことが分かる。どの作家の朗読会・読書会などに参加したいかの問いには、金子みすゞやまどみちを抜いて福田百合子が最高位になっている。

参加者は、60代以上のシニア層が多く、朗読会の告知も「はがき」による方が確実である。

本朗読会は、やまぐち文化プログラム実行委員会の「明日の文化人育成プロジェクト（やまぐち若手文化人等スキルアップ支援事業）」からの助成金を得て実施された。当日の様子は、2月10日の長周新聞に次頁のような谷村律弘氏による「読者通信」として掲載された。

画家・香月泰男を語る

「シベリアの豆の木」を軸に
山口県 根底にある戦争体験

【読者通信】山口県大津郡三隅村 現・長門市三隅)に生まれシベリア抑留の体験をもとにした作品やふるさとの自然や愛する家畜題材とした絵画を残した香月泰男について、「福田百合子が香月泰男を語る」シベリアの豆の木」が一月三〇日、山口市の菜香亭でひらかれた。主催はアーサー・ビネード研究会(金崎清子代表。福田氏は中原中也記念館名誉館長。

香月泰男(一九一一年七四)は、「ここが私の地球だ」といってふるさと三隅現在の山口県長門市三隅をこよなく愛した戦後日本美術史を代表する洋画家とされる。一九一一年明治四四年、山口県大津郡三隅村(現・長門市三隅)に生まれ、第二次世界大戦後のシベリア抑留の体験をもとにした五七点の油彩からなる「シベリア・シリーズ」が代表作だが、廢材を利用して作った「おもちゃ」と呼ばれるオブジェも人気を博している。



まず初めに、童話「ジャックと豆の木」の紙芝居と「シベリアの豆の木」香月泰男ものがたり(文・古川薫 彫絵・石井昭)の朗読を劇団ゴッポと山口の朗読屋さんのメンバーがおこなった。福田氏はまず、中原中也が明治四〇(一九〇七)年生まれ、香月泰男が明治四四(一九一一年)年生まれ、古川薫は大正一四(一九二五)年生まれ、福田氏は昭和三(一九二八)年生まれだと紹介し、「この世代に共通するのは戦争。だこのべ、なにを語るにも戦争体験は切り離すことのできないテーマだと語った。福田氏は、「シベリア・シリーズ」に代表される香月の作品は黒を基調にするものが多いが、ヨーロッパ旅行のちは明るく、ふるさと三隅や家族への愛情があふれる作品が増え、東京に出ていってもなく、生まれ

育った三隅の地で、くまの直前まで創作活動をおこなった」と紹介した。香月はシベリア抑留から生きて帰り、持ち帰ったシベリアの豆の木を庭に植えて育てていたが、福田氏の長兄は同じシベリアに抑留され現地で亡くなっていった。そのころは家業は廢業に追い込まれ、土地・財産も失くすという苦境のどん底に落ち込まれた福田氏は、その不条理に対する怒りの矛先をどこに向けたらよいかかわからず、香月に対する恨み・つらみに似た感情を抱き、庭に植えたサン・ジュアンの本を直視することができなかったという胸の内を語った。

香月泰男の作品「書の本陽」(1)トグラフを持参した婦人は、「父は香月泰男と同じ部隊にいてシベリアに抑留された。戦争のことは語りながらなかつたけど、香月泰男がいつも絵を描いていたという話は聞いていた」と語った。



3. 「福田百合子が大内文化を語る 一朗読と学びの集い」(2月13日・2月27日)

2021年2月13日(土)と2月27日(土)の二日に分けて標記の朗読と学びの集いがいずれも午後2時~4時、山口市菜香亭を会場にして実施された。両日の開催は、山口市からの「大内文化特定地域活性化事業補助金」を得て実施された。

山口県立大学国際文化学部編『大学的やまぐちガイドー「歴史と文化」の新視点』(昭和堂発行、2011)所収の福田百合子著「やまぐちの文学者一塔の見える街」(pp.177-189)を題材にした。「山口の朗読屋さん」のメンバーが朗読し、福田先生が大内文化について語る形で、前編と後編に分けて開催した。

主に一の坂川沿いの名所・旧跡と文学との関係についての資料や写真をパワーポイントで映



(5)

し、理解の助けとした。大学生や成人向けに書かれた解説をよりわかりやすく、語りかけるような朗読を心がけた。文字情報による知的理解だけでなく、写真や図などの映像的な理解、共感的理解が得られるように配慮した。

主催は「山口の朗読屋さん」であるが、「アーサー・ビナード研究会」（代表：金崎清子）が共催団体として協力した。また、山口市教育委員会に後援していただいた。

2月13日の参加者31名中、27名のアンケートを回収できたので、以下に示す。

内訳：＜男性②・女性⑳・無記入④＞ 年齢：＜50代②・60代⑩・70代⑪・80代④＞

表3. 「福田百合子が大内文化を語る（前編）」（2月13日）アンケート集計結果

1. この朗読+学びの集いをどのようにお知りになりましたか？（以下最多項目を太字で示す） はがき⑧ 新聞⑩ 知人・友人⑪ その他⑤ 無記入③
2. 特に印象に残ったのは、次のどれですか？ 大内文化（山口の文化）⑪ 絵本「雪舟」の朗読⑧ 福田百合子のお話⑩ 中原中也の詩の朗読⑦ その他：福田先生の藤の豆① 無記入②
3. 今回の朗読+学びの集いの「朗読」について、どう思いますか？ とても良かった⑭ 良かった⑨ どちらとも言えない① 改善の余地あり：読み間違いが多い① 無記入② *＜記述欄＞朗読がリレーされる時、もう少しスムーズにできたら良いかと。
4. 今回の朗読+学びの集いの「福田先生のお話」について、どう思いますか？ とても良かった⑳ 良かった③ どちらとも言えない① *改善の余地あり①：大内文化の定義を鮮明にしてほしい *以下省略

第2項目の「絵本『雪舟』の朗読⑧」とあるのは、室町時代を代表する画家『雪舟』（木村茂光監修 2010）を朗読したことを指す。同じく「中原中也の詩の朗読⑦」とあるのは、福田百合子監修（1998）『中原中也・汚れっちまった悲しみに…』の中から「冬の長門峡」「サーカス」「帰郷」「悲しき朝」「童謡」を朗読したことを指す。（注2）

「福田百合子が大内文化を語る（後編）」（2月27日）の参加者30名中28名のアンケートが回収されたので、その結果の第2項目（Q2）と第5項目（Q5）を以下に開示する。内訳：＜男性④・女性㉓・無記入①＞ 年齢＜50代②・60代⑨・70代⑬・80代③・無記入①＞

表4. 「福田百合子が大内文化を語る（後編）」（2月27日）アンケート集計結果（一部抜粋）

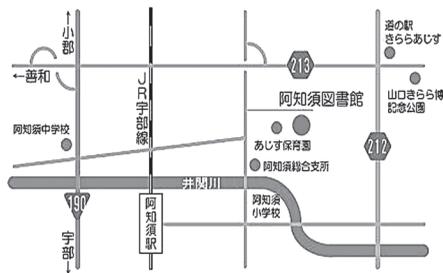
Q2. 特に印象に残ったのは、次のどれですか？ 大内文化（山口の文化）⑥ 福田先生のライフ・ヒストリー⑳ 福田先生の解説⑩ 山頭火の影絵句集の朗読⑤ その他① 無記入④
Q5. 今回の朗読+学びの集いの「山頭火影絵句集の朗読」について、どう思いますか？ とても良かった⑭ 良かった⑫ どちらとも言えない① 改善の余地あり① 無記入②

上記のQ2の特に印象に残った項目として、タイトルの「大内文化」よりも福田百合子先生のライフ・ヒストリーが筆頭で、次に福田先生の解説が続いた。筆者が自著を語るわけで、自ずと著者のライフ・ヒストリーが語られることとなった。戦争の惨禍とコロナ禍を経験された90年あまりの人生を語ることの重みが感じられた。まさに福田先生は「大内文化」の歴史を語る生き証人といっても良いであろう。語れば語るほど、お宝が出てくるという感じがする。

Q5の「山頭火影絵句集の朗読」について聞いているのは、石井昭・影絵／石寒太・文(1999)『種山山頭火・うしろすがたのしぐれてゆくか』の一部を朗読したためである。(注3)

4. 阿知須図書館「福田百合子先生を囲む春の朗読＋お話し会Part1」(3月13日)

3月13日阿知須図書館の多目的室で標記の朗読会を企画し、福田百合子先生にゲスト講師として来ていただき、参加者17名で実施することができた。福田百合子著『心のふるさと散歩』をテキストにして春の章前半から「ケイチツ」「折紙」「鳥」を朗読し、福田先生に解説していただいた。なお、参加人数が少なかったため、アンケート調査の結果の開示は省略する。



5. 吉敷地域交流センター「福田百合子先生を囲む春の朗読会 Part2」(4月12日)

4月12日(月)2時～4時、吉敷地域交流センター2階視聴覚室にて標記の朗読会が開催された。福田百合子著『心のふるさと散歩』をテキストにして春の章後半から「さくらばな」「貝」「林檎の花」「おぬい豆腐」を朗読した。「林檎の花」の中に島崎藤村の詩集『若菜集』に収められている「初恋」のことが紹介されていたので、参加者に朗読してもらった。

当日の様子は、4月19日付の長州新聞に以下のように掲載された。(文中「桑名の驛＝駅」)

<p>山口の朗読屋さん 春の朗読会 山口の朗読屋さん(林 山口)市吉敷地域交流センター に中原中也読館名譽 館長の福田百合子氏(九 三歳)を招き、春の朗読 会Part2をおこなっ た。福田百合子著「心のふ るさと散歩」(春の章) より「貝」「林檎の花 」「おぬい豆腐」を朗読屋 さんのメンバーが朗読 し、福田氏が解説した。 「貝」では「竹取物語」 の「燕の子安貝」の話、 中原中也の遺作集にある 詩「桑名の驛」に「焼給 島」が登場するので桑名 駅には「桑名の驛」の詩 牌があるという話、福田 氏が女学生時代に思いを 寄せていた人(貝)掘り を行ったが、その彼が結核 でしくなり、彼のハイオ リンを形見してもらっ たという話などを語っ</p>	<p>「林檎の花」では終戦 直後に流行った「リンゴ の歌」を参加者全員で歌 い、関連して島崎藤村の 『若菜集』より「初恋」 の詩を参加者が輪読し た。 福田氏は、中国朝鮮か ら渡ってきて「日本では 栽培に適さない」とされ た林檎が山口県の豊後地 域でも栽培されるまに なり、開地でリンゴ農家 の話を聞いた思い出や 「初恋」のように林檎が 登場するナイヴな詩か ら出発して散文になり、 那波解放をテーマにした 「破戒」を書くまでにな った島崎藤村について語 った。 福田氏は戦時中学徒動 員で、衛生兵が使用する 麻薬をケシの花から作っ ていたが、女学生が煙を 吸って気が悪くなった 一件を機に工場で風船爆 弾をつくるようになった という経験も語った。</p>
--	--

6. 「福田百合子先生を囲む夏の朗読会 Part 1」（6月19日）吉敷地域交流センター

6月19日（土）2時～4時、吉敷地域交流センター2階視聴覚室にて山口の朗読屋さん主催の「夏の朗読会 Part 1」が開催された。福田百合子著『心のふるさと散歩』をテキストにして夏の章の前半から「写真」「病気の神様」「鬼瓦」「時計」を朗読した。

6月・7月の夏の朗読会は、山口市教育委員会の後援と山口市文化振興財団からの助成を得て実施された。

参加者24名中、20名のアンケートを回収したので、その集計結果を以下に開示する。選択項目中の最多項目は太字にし、○内に選択数を記入した。内訳は<男性④・女性⑩> 年齢：<20代①・30代①・40代①・50代③・60代⑨・70代⑤・80代②・無記入①>

特に印象に残った項目は、降順で示すと<福田百合子先生の解説⑬ 鬼瓦⑥ 時計⑥ 病気の神様⑤ 写真④ 正午① 村の時計（中也）① 無記入②>であった。

上記の「正午」「村の時計（中也）」とあるのは、福田百合子監修（1998）『中原中也・汚れっちまった悲しみに…』から「正午」と「村の時計」を参加者に朗読してもらったからである。ちょうど中原中也記念館（山口市湯田温泉1-11-21）では、4月14日から7月25日までの間、企画展として「中也、この一冊—『正午』」が展示されていた。

表5. 「福田百合子先生を囲む夏の朗読会 Part 1」（6月19日）自由記述

- *勉強になりました。（男性・50代）
- *初めて参加いたしました。皆様が朗読を楽しんでいらっしゃる様子がよく伝わりました。それぞれによく通り響く声ですばらしいと思いました。加えて百合子先生の解説に知識が広がり勉強させていただきました。百合子先生の「外郎の家」の朗読をリクエストします。（女性・50代）
- *山口の歴史を交えた福田百合子先生のお話がとても楽しかったです。もっと沢山聞きたいと思います。「時計」では、大内時代から今までの時の流れを感じる事ができました。これからも続けてほしいと思います。（女性・60代）
- *福田百合子先生のお話も毎回のことながら興味深いエピソードが豊富で時間がすぎるのも忘れるほどでした。（女性・60代）
- *今回も福田先生がよどみなく話される事にただただ感動のひとつでした。（女性・70代）
- *福田先生のお話、たびかさねるとずっと聞いていたい気分です。（女性・80代）
- *福田先生の文学話には、いつも頭が下がる思いで、敬服しております。（男性・60代）
- *福田先生のエッセイにスライドで時代的な資料を添えて下さって、とても判りよかったです。このエッセイ自体が先生の山口のエッセンスを集めて下さったもので、すばらしいですが、作品を先生ご自身が朗読されたものだということがうれしいです。（男性・80代）
- *福田先生のお話はいつも楽しいですね。いつまでもお若くして下さいね。私たちのお手本です。私も長生きできそうです。朗読屋さん大変皆さんお上手でした。（女性・70代）
- *福田先生との朗読会も回を重ねてきて、なごやかな雰囲気で朗読や先生の話が聞けて、楽しい時間でした。資料も写真などがあり、わかりやすかったと思う。（女性・60代）

上記の「百合子先生の「外郎の家」の朗読をリクエストします。(女性・50代)」との声があったが、福田先生の代表的な三部作は『外郎の家』(1987)『樫野川』(1987)『鵜を抱く女』(1989)で、いずれも毎日新聞社から出版されている。できるだけリクエストに応えたい。

「関連のある写真と朗読される文章を見ながら聞けるのがとても良いと思う。朗読後に福田先生のお話加わると一段と文章の内容が広がっていく」とのスタッフからの声もあった。

7. 「福田百合子先生を囲む夏の朗読会Part2」(7月24日)吉敷地域交流センター

7月24日(土)2時～4時、吉敷地域交流センター1階講堂にて、「福田百合子先生を囲む夏の朗読会Part2」が開かれた。以下の表6のプログラムにもあるように歌「さんぽ」と大型絵本「お弁当箱の歌」にはじまり、福田百合子著『心のふるさと散歩』の夏の章の後半から「遠足」「牛の舌」「お盆」「百日紅」を朗読し、著者の福田先生に内容と背景を解説していただいた。

「お盆」の中に井伏鱒二の『黒い雨』が紹介されていたために、スタッフと参加者に作品の一部を朗読してもらった。それは、ちょうど朗読会の前の7月15日の朝日新聞に『『黒い雨』二審も原告勝訴／広島高裁・区域外住民も被爆者』の記事が掲載されたこともある。同日の新聞に「東京・新規感染1149人／全国3194人・拡大が加速」とコロナ禍の記事が出ていた。

表6. 「福田百合子先生を囲む夏の朗読会Part2」(7月24日)プログラム

時間	朗読・解説する内容	朗読者＋解説者
14:00	開会挨拶、歌「さんぽ」「お弁当箱の歌」、朗読「遠足」	林・福田／ピアノ伴奏(小田) 大型絵本 小田恵子・内藤充子／司会：金崎清子
14:15	「遠足」解説	福田百合子先生
14:30	朗読「牛の舌」	島田令子・西村清美
14:45	「牛の舌」解説	福田百合子先生
15:00	休憩	トイレの案内
15:10	朗読「お盆」、井伏鱒二「黒い雨」	田中範明・岡村久美子・参加者朗読
15:25	「お盆」「黒い雨」解説	福田百合子先生
15:40	朗読「百日紅」	荒井佳恵・金崎清子
15:50	「百日紅」解説・閉会挨拶	福田百合子先生・林伸一(次回の案内)

各回に表6のようなプログラムが配布された。時間枠を細かく設定しているのは、注意の持続時間が高校生でも15分くらいだからである。他の回のプログラムは紙幅の関係で省略する。

当日の参加者は30名で、その内の26名から、アンケートを回収することができた。

以下にその集計結果を開示する。回答者の内訳は、<男性⑤・女性②>、年齢については、<40代①・50代③・60代⑩・70代⑨・80代③>であった。

特に印象に残った項目は、降順で示すと<福田百合子先生の解説②③ 遠足⑪ お盆⑨ 牛の舌⑨ 黒い雨(井伏鱒二)⑨ 百日紅⑧ お弁当箱の歌⑤ さんぽ②>であった。

どの作家の朗読会・読書会などに参加したいかとの問いには、<福田百合子⑭ 中原中也⑭ 金子みすゞ⑩ アーサー・ビナード⑧ 宇野千代⑧ まどみちお⑤ 山頭火⑤ 井伏鱒二⑤ 磯永秀雄② 山口市・山口県にまつわる作家① 宮本常一①>との回答であった。

表7. 「福田百合子先生を囲む夏の朗読会 Part2」(7月24日)自由記述(記入⑰ 無記入⑰)

- * 福田先生の尽きない話。次から次へと関連した事象、人物が出てきて引き込まれてしまいます。秋編・冬編が楽しみです。(性別・年齢無記入)
- * 話がいろいろ展開して面白い。福田先生の話が何度聞いても聞き飽きない。(男性・50代)
- * 毎回感じていることですが、福田先生のお話に感動します。ご高齢にもかかわらず、姿勢・話し方に感心して毎回楽しみにしております。(女性・70代)
- * 福田先生のお話は、なつかしく、とても興味深くききました。(女性・80代)
- * 百合子先生の解説でいろいろな事を学びました。もっとお聞きしたい。(女性・70代)
- * 今日奥深い福田先生のお話、朗読会の方々のそれぞれのおもいをこめたお話、共にステキなひとときでした。ありがとうございました。(女性・60代)
- * 福田先生の解説が大変楽しかった。もっといろいろなお話を聞きたかった。(女性・70代)
- * 8月15日のお盆と終戦、戦後とおもしろいテーマでした。福田先生のお話は、とても楽しく聞かせていただきました。(男性・60代)
- * 初めて参加させていただきました。母の付き添いという形でしたが、とても良かったです。朗読に母も関心がありましたので良かったと思います。先生の話もさすが！(女性・60代)
- * 山口の風習を詳しく知ることができてよかった。私ももういい年代ではあるが、続けない行事やものごとが意外と多いと思った。(女性・40代)
- * 今日は、先生もご指摘されましたが、読み違いが気になりました。一月「いちがつ」⇒ここでは「ひとつき」です。伊勢小路を「いせこうじ」と読まれましたが、「いせしょうじ」では？(女性・60代)

上記の表7の最後に読み違いの具体例が指摘されている。「一月『いちがつ』⇒ここでは『ひとつき』です。伊勢小路を『いせこうじ』と読まれましたが、『いせしょうじ』では？(女性・60代)」とのご指摘である。

『心のふるさと散歩』の中の「お盆」に「お正月と同じく一月遅れのお盆が多い」とあるのを「一月」を「ひとつき」と読まずに「いちがつ」と読んでしまった誤りである。

確かに「一月」には、「いちがつ」(January)と「ひとつき」(one month)の二つの読みと意味があるが、文脈の前後関係から自ずといずれか判別できる場合が多い。分担した箇所のある文字列を機械的に読んでいくと、このような外国人留学生の読み間違いかと思われるような誤読が発生する。

また、自分一人の黙読だけで準備していると読み間違いに気づかない場合がある。練習段階でも誰かに聞いてもらうとか自分の読みを録音して再生してみると思い込みによる読み間違いを直すことができる。普段の朗読教室で間違いを他者から指摘されても、聞き流して読みのルビを漢字にふらないと、二度目も、三度目も同じところで同じ読み間違いをしてしまう。

表記する側としては、「一月」を「いちがつ」ではなく「ひとつき」と読んでほしい場合には、「ひと月」とするか、「一か月」と書く配慮も必要となるであろう。

伊勢小路は、「いせこうじ」か「いせしょうじ」かは、現在山口市に地名として残っていないため判別が難しい。「山口の旅は、伊勢大路与豎小路（たてこうじ）が交わるあたりから始めるのがいい」と山口市観光課の広報誌に出ている。伊勢大路（いせおおじ）に対する豎小路（たてこうじ）なのだから、伊勢小路（いせこうじ）と言ってもよさそうであるが、一方では大殿大路（おおどのおおじ）に対して、御局小路（おつぼねしょうじ）、錦小路（にしきしょうじ）などがある。そうすると伊勢小路は「いせしょうじ」と読むべきなのであろうか。

『角川日本地名大辞典』（1978 - 1990）によると「いせしょうじ」と読み方が示され、「江戸期の町名。山口町のうちの1町。山口町の北部、上豎小路から一の坂川に架かる伊勢橋を渡って伊勢門前町までの通り」と明記されている。山口市歴史民俗資料館（山口市春日町5-1）で古地図でも位置を確認することができる。

「お盆」には「御霊供」という言葉がでてくるが、それを練習段階では「みたまぞなえ」と訓読み式に読んでいた。それを福田先生に「おれいぐ」と読むと指摘され、誤読に気づいた。確かに「御霊供膳」を「おれいぐぜん」または「おりょうぐぜん」ということから分かる。

せっかく指摘を受けてもメモすることもなく、「御霊前」は「ごれいぜん」というのだから「御霊供膳」は「ごれいぐぜん」のはずだとして、訂正を受け入れようとしぬ人もいる。

表8. 「夏の朗読会 Part2」（7月24日）スタッフとしての振り返りコメント

- | |
|--|
| <p>*いつもの通り今日も福田先生のお話は大変楽しかったです。福田先生に来ていただくとしづつ若くなります。今日は何歳？次回も楽しみです。（女性・70代・スタッフ a）</p> <p>*昔から伝承されている行事などを詳しく話していただいて、よかったです。先生のお話も聞け、子供のころのことを思い出すことができたり、有名な作家さんの裏話もあり、楽しい時間を過ごすことができました。（女性・60代・スタッフ b）</p> <p>*会場が広く、余裕があってよかったと思った。一話2人ずつの交代のしかたも上達したというか、スムーズにやれるようになった気がした。書籍の紹介コーナーも、みなさん立ち寄って手に取られているなどと思った。写真入りの画面が、朗読とともに映し出されるのが、本当にいいなと毎回思う。（女性・60代・スタッフ c）</p> <p>*今回も福田先生のお話を伺うことができとても良かったです。渋沢栄一と関わりある人物の話も興味深かったです。「遠足」にあった短歌や俳句を読み、ほかの歌や句にも興味を持ちました。オープニングに歌や大型絵本があったり、途中で今までは、詩の朗読が多かったが、今回は小説「黒い雨」を参加者が朗読したり、新しい取り組みも良かったと思う。季節感たっぷりの時間でした。（女性・60代・スタッフ d）</p> |
|--|

「毎回参加してくださる方が多いためか、なごやかな会になったように思います。福田先生のお話の豊かさに感動です。若手ではないけど、文化人に近づけそうな気がします！」というスタッフ e（女性・60代）の声もあった。その「若手ではないけど、文化人に近づけそうな気がします！」とあるのは、やまぐち文化プログラム実行委員会からの「明日の文化人育成プロ

ジェクト（やまぐち若手文化人等スキルアップ支援事業）」からの助成金を得ていることに関係している。なんとか若手文化人を育成したいとの思いがスタッフにはある。

8. 「福田百合子先生を囲む秋の朗読会 Part 1」（9月27日）山口市菜香亭

9月27日（月）の午後2時から4時、山口市菜香亭2階会議室で標記の朗読会が開催された。当初の計画では、9月25日（土）の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために会場の山口市菜香亭が休館となり、休館明けの9月27日（月）に変更して実施した。事前に変更を葉書などで告知したが、中には告知漏れで9月25日に山口市菜香亭を訪れた人がいて、申し訳ないこととなってしまった。

当日の参加者33名中26名のアンケートを回収できたので、その集計結果を開示したい。

内訳は〈男性①・女性②④・無記入②〉、年齢は〈50代①・60代①①・70代⑩・80代②・無記入②〉であった。紙幅の都合上、アンケート項目の一部と自由記述のみを示す。

特に印象に残った項目は、降順で示すと〈福田百合子先生の解説② 椿⑬ お風呂⑩ 銀杏落葉⑩ ネルの匂い⑧ ウトウとクイナ⑧ クイズ③〉であった。

表9. 「福田百合子先生を囲む秋の朗読会 Part 1」アンケート自由記述（無記入⑬）

- * 宇野千代と福田先生との関りがあるようで、続きをしりたかったです。（女性・60代）
- * 福田先生の「椿」のときの宇野千代の話も聞きたかったです。今の季節にふさわしいしつとりとした秋の話がとても良かったです。幸せな楽しい時間でした。（女性・60代）
- * 福田先生のお話はもちろん、朗読の皆様の朗読も心地よく、日常と別の世界を感じれて、とても良い時間になりました。知らないことが沢山あるなあと改めて思い、新しいことを知れたことも楽しかったです。ありがとうございました。（女性・50代）
- * 幼き頃のことを思い出しました。福田先生より少し下ですが、同じような時代を過ごしており、よくわかりました。先生の記憶力には、感心致します。（女性・80代）
- * 福田先生と林己江子さんの「ウトウとクイナ」の英語での朗読、とてもテンポがよくすばらしかった。（女性・60代）
- * 話の中身は、とてもすばらしく、興味をひくものでした。こういうことが教養ということだろうと思い、これからも参加して、様々なことをお聞きしたいものです。（女性・70代）

上記の「先生の記憶力には、感心致します。（女性・80代）」との声にもあるように、93歳の年齢にもかかわらず、人名や地名がスラスラ出てくるのに驚かされる。その記憶力の秘策を問うと日記をつけたり、手帳に書き込んだりしているとのこと。日記に限らず、文筆活動や講演活動を続け、エピソード記憶を述べていることが脳の活性化につながっているであろう。

「福田先生と林己江子さんの『ウトウとクイナ』の英語での朗読、とてもテンポがよくすばらしかった」とあるように、『ウトウとクイナ』の日本語と英語の対訳朗読が実現した。

福田先生から能楽に『善知鳥／烏頭（うとう）』という演目があり、「ウトウ」と親鳥が鳴くと子が「ヤスタカ」と応えるのを捕らえて生計を立てていた漁師が死後亡霊となり、生前の殺生を悔い、そうしなくては生きていけなかったわが身の悲しさを嘆く話との解説があった。

表10. 「秋の朗読会Part1」スタッフとしての振り返りコメント（9月27日）

- *一つの事柄から広がる福田先生のお話、いつもながら有意義な時間でした。子供のころの経験を思い出し、懐かしい時間でもありました。今回は朗読してくださり、余韻が残っています。（女性・60代・スタッフa）
- *福田先生の解説は、何度聞いても飽きず、とても楽しいひととき（時間）です。また、当時の生活様式や様子が詳しく書かれていて、昨日のこのように懐かしく思いました。（女性・60代・スタッフb）
- *『心のふるさと散歩』の内容が豊かで、福田先生の関連のあった方々のエピソードを聞かせていただき、すばらしいと思いました。スクリーンの参考資料のおかげで、わかりやすく、とても良かった。参加型の朗読会にもなったと思います。（女性・70代・スタッフc）
- *福田先生の朗読が聞けたのがよかった。メンバーの朗読もとてもスムーズに進んだと思った。映写された画像も興味をそそられ、長州風呂と五右衛門風呂の画像など、大変面白かった。菜香亭の急階段を上り下りされる皆さんが素晴らしい。（女性・60代・スタッフd）

9. 「福田百合子先生を囲む秋の朗読会 Part2」（10月16日）小郡地域交流センター

10月16日（土）2時～4時、小郡地域交流センター2階大ホールにて、標記の朗読会が開かれた。福田百合子著『心のふるさと散歩』をテキストにして秋の章の後半の「中也忌」「コスモス」「白鳥の湖」「萩のもんかきや」を朗読した。「中也忌」との関連で「サーカス」を福田先生と林己江子さんに日本語と英語の対訳朗読をしてもらった。英訳は、アーサー・ビナード（2007）を用いた。当日は、中原中也の「骨」と「よごれちまった悲しみに…」を石丸義臣氏に朗読してもらい、自作の曲をつけてギターを弾き語りをしてもらった。

金子みすゞの「キリギリスの山登り」の詩も合間に挿入する形で朗読された。

9月と10月の朗読会は、山口市と山口市教育委員会からの後援を得て実施された。また、6月以降は、山口きらめき財団からの課題解決支援「はな」プログラムの助成も得て「朗読+お話し会によるコミュニケーションの活性化プロジェクト」にも取り組んでいる。

当日は、参加者42名中36名分のアンケートが回収できたので、その集計結果を以下に示す。回答者の内訳は、＜男性②・女性③④＞。年齢は、＜40代①・50代②・60代⑬・70代⑩・80代⑤・90代① 無記入②＞であった。紙幅の都合上、アンケート項目の一部のみを示す。

特に印象に残った項目は、降順で示すと＜福田百合子先生の解説⑳ 白鳥の湖⑮ 骨⑮ 汚れちまった悲しみに…⑮ 中也忌⑬ サーカス⑬ コスモス⑬ 撓まないコスモス⑨ キリギリスの山登り⑨ 萩のもんかきや⑧＞であった。次の表11に示すように「白鳥の湖」の朗読は素晴らしかったとの自由記述が2件あった。朗読だけでなく、石丸義臣氏によるギターの伴奏がBGMとして「白鳥の湖」の朗読に効果を及ぼしたとも言えるであろう。表12にも「音楽がある朗読会は、癒されます（女性、70代）」とのコメントが寄せられている。

「撓まないコスモス⑨」とあるのは、与謝野晶子の「コスモス」という6行の詩であるが、福田先生の「コスモス」と区別するために便宜的に「撓まないコスモス」とした。同詩は、『パフェームの恋 与謝野晶子』（2007、飯塚書店）にイメージ写真付きで収録されている。

表11. 「福田百合子先生を囲む秋の朗読会Part2」アンケート自由記述（無記入⑨）

- * 大学の講義のようで楽しかった（福田先生）。（女性、40代）
- * 福田先生の変わりないお元気なお話しぶりに聞き入っておいりました。毎回、先生のお話を楽しみに参加させて頂いてます。「白鳥の湖」の朗読は素晴らしかったです。（女性、70代）
- * 福田百合子先生のお話、とてもわかりやすく、おもしろいです。とてもなつかしく思います。「白鳥の湖」よかった。（眼が悪いので失礼）（女性、80代）
- * 盛りだくさんの企画ですばらしいです。福田先生の文章のすばらしさを改めて感じました。さらにご高齢の先生の記憶力の凄さ、声のきれいな張りにも驚かされます。（男性、80代）
- * 福田先生のユーモアのあるあたたかなお人柄に触れることができました。すっかり先生のファンになりました。（女性、年齢無記入）
- * 「巣ごもり生活」から少しの時間…脱出できました。感謝!! 百合子先生のお声（お話）が耳に心にスッと入りました!! 「オフレコ」有り難く拝聴しました。（女性、60代）
- * 秋の一日、とても楽しく過ごさせて頂きました。ありがとうございます。（女性、70代）
- * 福田先生のお話が、とても深く楽しく元気をいただきました。（女性、70代）
- * 福田先生のお話が、とても興味深く、もっと聞きたかったです。（女性、70代）
- * 詩に入る入り口が、私はわかりません。自分だけでは、ひとに…（女性、80代）
- * 詩や古典の話は、とてもむつかしく感じました。奥が深く、福田先生の解説が、ユーモアたっぷりで面白く、興味がわきました。これからも機会あれば出席したい。（女性、80代）
- * 今回も、話題たっぷりの朗読会でした。様々な事柄についての解説を伺い、関連の本を読んでみたくなりました。（女性、60代）
- * いつも福田先生のお話は楽しく、時代がわかり、なつかしく聞かせてもらっています。（女性、60代）
- * お話が途中で終わってしまって、ちょっと消化不良でした。（男性、50代）
- * 福田百合子先生の解説が、脱線を含めて、すばらしかった。（女性、60代）

表6に示したように、時間進行表にあたるプログラムを配布しているが、時々そのプログラムになかったトピックに福田先生がコメントされることがある。「お話が途中で終わってしまって、ちょっと消化不良でした。（男性、50代）」との声も時間切れになってしまったためである。今回も報道関係者がいないことを確かめた上で、「オフレコ」が語られた。その内容は、前天皇がまだ皇太子であった時に中原中也記念館を訪問されて、皇太子が中世の「帰郷」「骨」などの作品をご存じだったとのことであった。参加者からは「福田百合子先生の解説が、脱線を含めて、すばらしかった。（女性、60代）」との声が聞かれた。

上記の「詩に入る入り口が、私はわかりません。…（女性、80代）」とのコメントは、朗読した地の文と引用されている詩や俳句・和歌の区別がつかないという意味のようである。地の文と引用文を分け目なく一本調子で読んだのでは、文字原稿を持たない参加者には、区別が付きにくい。よくメリハリをつけて読むと言うが、どこの部分が卓立されているのか、読む側も意識しないと聞く側に伝わらない。これ以降、俳句や和歌は、二度読むことで強調させるとい

う改善を実行することとした。反省会なしの朗読会には進歩・改善が期待できない。

表12. 「福田百合子先生を囲む秋の朗読会 Part2」ギター演奏についての自由記述

- * 誰でも自由に参加し、日常生活から少し離れた空間で、とてもよい催しと思います。
ギター演奏も朗読に花を添えて、良かったです。(女性、70代)
- * 石丸さんの朗読・ギター演奏素晴らしい。また聞きたいです。(女性、70代)
- * 石丸館長の「骨」への作曲もすばらしかったです!! さらに映像の力もすばらしいです。
朗読の皆さんもご苦労様です。(男性、80代)
- * 音楽がある朗読会は、癒されます。外国の詩集なども取り入れてほしい。(女性、70代)
- * 「骨」の歌、ギター良かったです。(女性、70代)

表13. 「福田百合子先生を囲む秋の朗読会Part2」スタッフとしての振り返りコメント

- * 朗読と朗読の間にギター演奏や歌、色々な方の詩の朗読などが入り、それぞれの方の個性が輝いて、すばらしい演出だったと思う。来られた方は、楽しめたと思う。会場が広がったせいか、ステージが高かったせいか、福田先生が遠く、距離を感じた。スクリーンは、大きくてよく見えた。毎回思うが、金崎さんの司会は素晴らしい。(女性、60代、スタッフa)
- * 毎回、だんだん良くなってゆくように思います。知識豊富な先生の解説は、わかりやすく楽しいと思います。冬のお話も楽しみです。(女性、70代、スタッフb)

10. まとめと今後の課題

福田先生の話聞いて「博識」「博学」「百科事典のよう」との感想を述べる人がいるが、それは褒め言葉のつもりかもしれないが、先生自身は、さほど嬉しくはないと思われる。というのは、「博識」「博学」「百科事典のよう」な学者・研究者は山ほどいる。その分野の知識が豊富なのは、学者・研究者なら当然のことで、研究室に閉じこもっている書齋派も「博識」「博学」にはなれる。今やAI(人工知能)の時代で、知識量を誇る学者・研究者はあまりいないであろう。福田先生の卓越している点は、文学の研究者としてだけでなく、自ら小説やエッセー、短歌や俳句などを書く実作者として、講演者として活動を続けている点であろう。

本報告の中心となった『心のふるさと散歩』は、単なるエッセー集ではなく、もともとラジオ放送のための放送原稿であり、その原稿を自ら書き、ラジオを通してリスナーに自ら語り掛けたという実績が結実したものである。しかも、その原稿を書くにあたってあちらこちらへと取材のために足を運ばれている。そのフットワークの軽さには、脱帽するばかりである。ちなみに同書は、1970(昭和45)年度の山口県文化振興奨励賞(文芸部門)を受賞している。

出版から50年を経た『心のふるさと散歩』には、今なお朗読会の素材として耐えうるだけの迫力と説得力が感じられる。その時だけの一過性の内容ではなく、文学入門書といってもいい普遍性を持っている。文学の分野に限らず、食文化や季節の行事、生活様式など民俗学的な視点や歴史的な視点が盛り込まれている。50年以上のタイムスリップを経験できるのである。

福田先生は、すでに山口県立大学の教授という職責を退いているのだから、「先生」と呼ぶ

のはやめてほしいと度々おっしゃるのだが、教員という特性が染みついているように思われる。朗読会のゲストとしての役割においても、サービス精神が旺盛で、参加者にとって分かりやすい説明、楽しい話題の提供に務めている様子がうかがえる。

とかく文学者は、一般人には分かりにくい難解な言葉、高等な表現や言い回しを用いるというイメージがある。しかし、福田先生の場合は、雲上人のような感じではなく、気さくでユーモアとウィットにあふれた言語表現をされる。「福田先生のユーモアのあるあたたかなお人柄に触れることができました。すっかり先生のファンになりました」との参加者の声も聞かれた。

「福田百合子先生のお話、とてもわかりやすく、おもしろいです。とてもなつかしく思います」との声が多く寄せられたが、それは知的理解だけでなく、自らの経験に基づく体験的理解や共感的理解の領域にも及ぶからであろう。(詳しくは、林 2014参照)

『心のふるさと散歩』の冬の章に関しては、11月20日のギャラリーカフェ「つるかめ」で山口の朗読屋さんが朗読したが、福田百合子先生は別件で参加できず、12月25日の「おてま」での「クリスマス朗読会」で解説とコメントをいただいた。年明けの2022年1月と2月に吉敷地域交流センターで「福田百合子先生を囲む冬の朗読会Part1、Part2」を実施する予定である。

今後の課題としては、福田百合子先生の『続・心のふるさと散歩』、代表的な三部作『外郎の家』『榎野川』『鶴を抱く女』についても朗読会を企画したい。宇野千代と福田先生との関りについて聞きたいとの要望もあるので、何らかの形で朗読+お話し会を実現したい。

(注1) 民放ラジオ番組とあるが、KRY山口放送のラジオ番組のことである。略称のKRYは、1956年にラジオ専業局として開局した当初、「株式会社ラジオ山口」(KK.RADIO YAMAGUCHI)という社名であったことに由来する。現在は、テレビは日本テレビ系列で、ラジオは全国ラジオネットワーク(NRN)・ジャパン・ラジオ・ネットワーク(JRN)のクロスネット局である。

(注2) 「その他：福田先生の藤の豆」とあるのは、当日「シベリアの豆の木」のサンジュアンの実をイメージするために福田先生がお宅の「藤の豆」をお持ちくださったことによる。それが食べられるかネットで調べたところフライパンで炒ったら、美味しく食べられるとのこと。

福田百合子監修/石井昭・影絵/中原中也(1998)『中原中也・汚れっちまった悲しみに…』には、「冬の長門峡」「サーカス」「帰郷」など18編の中也の詩が掲載されている。同書の「帰郷」には、「山では枯木も息を吐(は)く」とあるが、角川ソフィア文庫の『中原中也全詩集』(2007)では、中也の手書き原稿のルビに基づき「息を吐(つ)く」となっている。

集英社文庫の『汚れっちまった悲しみに……中原中也詩集』(1991)には87編、童話屋発行の『汚れっちまった悲しみに……』(2014)には、41編の中也の詩が収録されているが、福田監修本の中の「宿酔(ふつかよい)」と「童謡」の2編は、どちらにも入っていない。

(注3) 石井昭・影絵/石寒太・文(1999)『種田山頭火・うしろすがたのしぐれてゆくか』をテキストとして、山口の朗読屋さんは、2019年6月29日に山頭火ふるさと館(防府)での「山頭火の影絵句集の朗読+お話し会」を主催した。同年10月11日に小郡ふれあい

センターで、おごおり文化協会主催「没後80年記念おごおり山頭火祭～生み出す力～」に参加、朗読した。

【参考文献】

- アーサー・ビナード (2007) 『日本の名詩、英語でおどる』 みすず書房
- 石井昭・影絵／古川薫・文 (1996) 『シベリアの豆の木―香月泰男ものがたり―』 新日本教育図書 (影絵ものがたりシリーズ1)
- 石井昭・影絵／石寒太・文 (1999) 『種山山頭火・うしろすがたのしぐれてゆくか』 新日本教育図書 (影絵ものがたりシリーズ5)
- 西本鶏介・文／広瀬克也・絵／木村茂光・監修 (2010) 『雪舟』 ミネルヴァ書房
- 林 伸一 (2014) 「『省略する言語文化』と『明示する言語文化』―暗黙知、明示知、『見える化』についての考察―」 山口大学人文学部異文化交流研究施設発行『異文化研究』第8号、pp.1-13
- 林 伸一 (2019) 「紙芝居と絵本の活用と再評価―『街の朗読屋さん』の視点から―」 山口大学文学会発行『山口大学文学会志』第69巻、pp.21-35
- 林 伸一 (2020) 「朗読会の可能性を考える―ボランティア・グループ『山口の朗読屋さん』の視点から―」 山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第43号 pp.132-146
- 林 伸一 (2021) 「福田百合子先生を囲む朗読会―金子みすゞと『山口の朗読屋さん』―」 山口大学人文学部国語国文学会発行『山口国文』第44号 pp.14-30
- 福田百合子 (1970a) 『心ふるさと散歩』 赤間閣書房 (全204頁)
- 福田百合子 (1970b) 『続・心ふるさと散歩』 赤間閣書房 (全278頁)
- 福田百合子 (1987a) 『外郎の家』 毎日新聞社 (全243頁)
- 福田百合子 (1987b) 『樫野川』 毎日新聞社 (全233頁)
- 福田百合子 (1989) 『鴉を抱く女』 毎日新聞社 (全207頁)
- 福田百合子監修／石井昭・影絵／中原中也・原作 (1998) 『中原中也・汚れっちまった悲しみに…』 新日本教育図書 (影絵ものがたりシリーズ4)
- 三上寛・文／黒田征太郎・絵／アーサー・ビナード英訳 (2013) 『ウトウとクイナPuffin and Rail』 今人舎
- 山口県立大学国際文化学部編／伊藤幸司責任編集 (2011) 『大学的やまぐちガイド―「歴史と文化」の新視点』 昭和堂 (全264頁)

<謝辞>

長周新聞社が本文中の記事の転載を快く承諾してくださいましたことを心より感謝致します。特に、同紙に「山口の朗読屋さん」と「アーサー・ビナード研究会」の活動を読者通信として記事をいつも執筆していただいている谷村律弘氏に深くお礼を申し上げます。

また、「こどもと本ジョイントネット21・山口」のブログ上で「山口の朗読屋さん」と「アーサー・ビナード研究会」の活動をいつも詳しく紹介して下さっている山口智子さんに心より感謝致します。特に、本文中の写真の提供にご協力いただいたことに感謝致します。

(はやし・しんいち)